

第 8 回奈良巡りの会のご報告

S54 文 武舎 一夫

11月11日(土)第8回奈良巡りの会が開催されました。奈良巡りの会は、平越真澄様(S47文)が幹事となって年2回開催されている催しで、平城京を中心とした奈良県北部と飛鳥・藤原京を中心とした奈良県中南部の歴史的遺産を交互に巡る奈良三田会の大変貴重な文化交流の場となっております。今回の奈良巡りの会では会員29名が集まり、江戸時代の町並みが大切に保存された橿原市今井町を晩秋のひとつ、のんびりと散策しました。今井町東の玄関口蘇武橋の樹齢400年のエノキの大木を訪れたあと、幕末期に建設された重要文化財高木家住宅を訪問しました。江戸時代の生活用品や火縄銃などが展示された住宅で、映画「燃えよ剣」のロケ地となりました。高木家住宅の近くには、多くの歴史的町家が保存されており、今回は短時間ではありますが、造り酒屋の河合家と恒岡醤油醸造本店を見学しました。恒岡醤油醸造では齢100年以上と思われる大桶が今日でも使用されていますが、醤油醸造や酒造ではホーロータンクやステンレスタンクへの移行が進み、今日木桶職人は国内にほとんどいないとのこと寂しい限りです。

次に訪れたのは豊田記念館。豊田家は江戸時代から続く豪商で、両替商、大名貸しとしておおいに繁栄しました。紙半豊田記念館は第12代当主の故豊田敦氏(慶應文学部47卒)により開設され、館内には4000点に及ぶ書画・骨董・古陶磁・蒔絵等に加え、多くの古文書や当時の生活用品が展示されています。紙半は、豊田家本家の屋号として使われているもので、豊田家が紙を取り扱っていたわけではありません。豊田家は、今井町のほぼ西端に位置し、庭には長寿の樹として知られる樹齢250年以上のカイズカイベキの木が植えられていますが、遠くから眺めると松の木に見えます。江戸時代商人の家に松の木はご法度ということで、カイズカイベキの枝を松風に剪定したのだそうです。最初に訪れた蘇武橋エノキの大木とこのカイズカイベキの大木が今井町への東西入口の目印とされてきました。

昼食は奈良三田会の砂田薫様(S52文)が今井町に開業された古民家カフェ「ももや」にて、地元の食材を使ったお弁当をいただき、会員相互の親睦を深めました。砂田様は、産官学民4セクターを横断した「キャリアのサイクルヒット達成者で、老老介護の為、東京から奈良に」ターンされたと自己紹介され、参加者から注目を浴びていました。その後参加者ひとりひとり持ち時間1分ということで自己紹介をしましたが、私を含め東京から奈良に移り住んだ方が大勢おられることに驚きました。

昼食後、今井町の中核的寺院である称念寺を訪問しました。現在のご住職の今井慶子様は称念寺のご住職となられたのが3年前で、それまではTVの制作現場でご活躍されたという経験からでしょうか、称念寺の歴史について大変明快でユーモラスなお話をお聞きすることができました。称念寺の草創は、室町末期本願寺の一家衆今井兵部卿豊寿がここに本願寺の道場を建てたのに始まります。織田信長が本願寺と対立していた時代、今井町も信長軍の攻撃の対象となって焼き討ちの危機に瀕しますが、本願寺の降伏により今井町も危機を逃れ、以後商業都市として発展し、「海の堺、陸の今井」と呼ばれるほど繁栄しました。

ご住職のお話のあと、昨年重要文化財に指定された本堂と明治天皇が大和巡幸の明治10年2月10と11日に宿泊された施設を見学させていただき、最後にご住職とともに本堂前で貴重な記念写真の撮影を行い散会となりました。